

電源立地地域温排水対策事業調査 一抄録一

藤田 修央・田村 亘

発 表 誌 名

平成元年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（東通地点）

抄 録

1. ヒラメ浮遊期仔魚分布調査

東通村白糠～小田野沢海域において8月に延べ3回（計40点）、稚魚ネット（口径1.3m）による昼間の中層曳（5分間）を行い入網生物から稚仔魚類を選別し、分類、計数を行った。

ヒラメの浮遊期仔魚は一般的には沖合の高鹹域で、昼間は中層域に多く分布する事が知られており、また、本県日本海側での昼間の調査事例等から判断して、昨年からの夜間の表層曳を昼間の中層曳調査としたが、ヒラメ仔魚は採集されなかった。この原因としては、採集方法や海況の影響が考えられるが今のところ不明である。

採集された稚仔魚では、イワシ類を主体としたシラス型稚魚が多く、次いでメバル属稚魚の順であった。このほか今年は昨年よりもカタクチイワシの卵を主体とした魚卵及びカニ類ゾエア・メガロパ期幼生の多いのが特徴的であった。

2. ヒラメ着底期稚魚及びイカナゴ成魚・未成魚分布調査

同上海域において10月に延べ2回（計10点）、桁網（桁網幅1m）を10分間曳網し採集を行った。

ヒラメは第1回調査では採集されなかったが、第2回調査のSt. 1（水深5m）で2尾、St. 2（水深10m）で1尾、St. 5（水深5m）で1尾の計4尾が採集され、これらの個体を耳石により年令を査定したところ、いずれも当才魚と推定された。

また、イカナゴは第1回調査のSt. 4（水深20m）で2尾、St. 7（水深5m）で3尾、第2回調査のSt. 2（水深5m）、St. 4（水深20m）、St. 6（水深10m）で各1尾の計8尾を採集したが、採集場所の底質はいずれも砂泥～砂利であった。

3. サケ稚魚分布調査

尻芳、白糠、泊地区のイカナゴ光力利用敷網着業船に対し、混獲サケ稚魚の採集を依頼し、各地区から標本を得たが、本年度は例年と異なりサンプル数が少なく、老部川より放流された標識魚は混獲されなかった。

胃内容物としては、魚類（イカナゴ）、橈脚目、端脚目（ヨコエビ類）、クマ目、アミ目、昆虫類、多毛類（ゴカイ）など多種にわたり、一定の傾向は見られなかったが、例年同様大型魚ほど魚食性が強く、餌料の選択性は比較的に少ないように思われた。